

マタイによる福音書 15 章 21～28 節

“信仰を引き出す沈黙”

今日のメッセージは強く心をとらえるものですが、大多数の人にとっては理解が容易ではありません。私達は先週母の日のお祝いをしました。今日のお話の人は、全ての母親にとって～又はどんな人にとっても～ 学ぶべき例、モデルとして取り上げるのに賢明なものでしょう。

この女性は自分の子供が大変な困難にあっている時、助けを求めてイエス様のところに来ます。イエス様からは”no(否)”と言う答えは頂きません。そして彼女は恐れることなくイエス様に異議を申し立て、ある意味勝利者として立ち去るのです。私達は彼女の名前さえ分かりませんが、尊敬と敬意を持って見ることができる女性です。私達は彼女の話の中に、今日現代においても人々の生活の中の神様の働きの方針となる何かを見つけることができます。

彼女は、皆さんが時々聞いたりする人々のことを思い出させるかもしれません。例えば、交通事故で車の下敷きになって動けなくなった子供を目の当たりにしている母親です。危機の瞬間に流れ出るアドレナリンの作用で、母親は直ちに駆けつけて子供が脱出するまで車を持ち上げるでしょう。勿論、この種の多くの話の詳細を証明することは難しいですが、次の例ではどうでしょう。Lydia Angyiou という女性の姿です。2006 年のことで、カナダの北ケベック州の自分が住む街を彼女が歩いていると、急に北極クマが 7 歳になる息子に近づいて来るのを見たのです。リディアは私の妻の千恵子よりも小さい人で、熊は 2.4 メートル以上の背丈、300 キロ超の重さでした。でもこの女性は直ちにそこにいた他の子供達に走って逃げるように言い、自分の身をその熊と息子の間に入れて、熊に向かって蹴ったり殴り始めました。熊も彼女を平手で地面に叩きつけ身体に覆い被さりました。彼女はそこでも自転車を漕ぐようにして足で熊を蹴りますが、熊も彼女を殴ります。彼女が熊と闘っていると、その物音に気付いた隣人が銃を持ってきて発砲し熊を倒し、その間に彼女と息子は無事に逃げる事ができたのです。

私がこの種の話を書く時には、聖書の言葉、第 1 ヨハネ 4 章 18 節。”全き愛は恐怖を取り去ります。”を思い出さずにはいられません。また私達には、“信じる者にとっては何事も可能です”(マルコ 9:23)。
というイエス様の約束もあります。

潜在的な神様の力が既に皆さんや私の内部に存在することを覚え不思議な思いにかられます。それは私達が試みを受け、また困難になった時だけに現れ、必要となる時の力として使える私達の父なる神様の助けなのです。

最近私達は、聖書の中で時々イエス様が際立って沈黙することについて見てきました。その沈黙を通してイエス様は、言葉では教えられないことを教えて下さっています。

今日の物語では、カナン人の女性が現実の必要からキリストの元に、彼女自身のためではないことで助けを懇願するために来たのですが、イエス様はお答えになりませんでした。イエス様は最終的には答えられるのですが、その答えは、答えがないことよりもっと悪いように思えるものです。要するにイエス様は彼女に、心配するな(気にするな)と言い、彼女の属する民(カナン人)について語る際に侮蔑的な“犬”という言葉を使います。これはどういうことでしょうか！正しいことであるはずがないですよ！世の人々のための神様の救いの愛を携えてこの世界に来られたキリストが、どうしてそんなに冷たい心なのでしょう。私達が、困難な時に神様に助けを求めて行ったのに何も無い状態で去っていくように思える、そのような時はどうなのでしょう。

時に、私達が(神様から)聞く全てのことは、このカナン人の女性が聞いた沈黙です。若しくは、もし私達が望む“yes イエス”と言う言葉の代わりにの答えを聞くとしたら、カナン人の女性が言われたように、それは“No ノー”又は“まだ”というある種の形かもしれません。それなら何が私達を助けてくれるのでしょうか？

これらの難しい問題を理解するため少し戻って最初から物語を見ていきましょう。まず始めに、これは何処で起こっているのでしょうか。そして何故イエス様と弟子たちはそこにいるのでしょうか。21 節では、“イエスはガリラヤを発ち、ティルスとシドンの地方に行かれた。”とあります。宗教上の指導者はイエス様の教えに異議を申し立てており、特にイエス様が癒しの奇跡を行い始めて以来、イエス様と弟子たちは問題を抱えた人々の絶え間ない流れにさらされていました。

この話の他の訳がマルコによる福音書 7 章 24～30 節にも記されています。この部分の直前(6 章 31 節)でイエス様は彼らに向かって、“私と共にあなた方だけで静かな場所に来なさい。あなた方は休む必要があります。”言いました。彼らには必要を抱えた大勢の人々に対処しなければならないという困難を抱えていたのです。彼らは時に食事の時間さえなかったことが読めます。休息と緊張をほぐすためにパレスチナから出て、地中海沿岸のティルスとシドンの地域にまで行かなければならなかったと思われれます。そして、そのような時に、今日の話の女性がイエス様と弟子たちのところへ助けを求めて来たのです。イエス様達は多分消耗しており、良い気分ではなかったのでしょうか。皆さんの経験からもこの時の状態を想像する事は多分簡単だと思います。

そこに突然(22 節)カナン人の女性がイエス様のところにやって来て叫んだのです。”ダビデの子主よ。憐れんでください。” マルコは彼女を、シリアーフェニキアの出であると言っています。そしてそれは、同じ場所の違う名前として使われていると思われる。(マタイは特にユダヤ人に向けて書いていると思われ、ユダヤ人により馴染みのある名前を使ったのでしょう。マルコは特にユダヤ人以外の人に向けて書いていて、この地区の非ユダヤ人が通常使っている名前を使っているのです。)

この女性はどのようにしてイエス様を知ったのでしょうか？ イエス様が自分を助けることができるかと彼女に信じさせたものはなんだったのでしょうか？ 多分彼女は、イエス様が語るのを聞いて人々を癒されるのを見た同じ地域に住む誰かからイエス様の事を聞いていたのでしょうか。

マルコは福音書の3章8～12節で、人々は全ての地域からやってきたと言っており、それは ” ティルスとシドンの周り” の地域を含みます。(ルカの福音書6節17節、18節にもあります。)

カナン人として、この女性はイエス様のグループとは異なった文化を持っており、そしてそのことが多分彼女の宗教的なバックグラウンドとなっているのでしょうか。彼女が神様であるイエス様やイスラエルについて多くのことを知っていたか否かははっきりしていません。なので、彼女がイエス様を ”ダビデの子、主” と呼ぶことを選んだのは驚くべきことです。聖書が使うこれらの言葉が示しているのは、イエス様は単なる良い人、良い教師ではなくて神の御子であるということです。イエス様は救い主、キリスト、王であり、イスラエルの偉大な王ダビデの子孫としてこの世の救い主として送られた方です。

この物語の終わりでは、イエス様はこの女性をその “大きな信仰” 故に褒め称えています。何がそうだったのでしょうか？ これがまず最初のことですが、この女性はイエス様が誰なのか知るのということです。彼女の信仰の対象は正しかったのです。聖書の神様は私達に、私達自身とか、友情の力とか私達が心の中で形作った宗教とか、そのような何でも良い何かを信じなさいとは決して言っていません。神様にとって一番の鍵となるのは、私達がいかに強く思うか、又は、どれだけ長く研究したかや神様の教えをどれだけ正確に理解したかということではなく、勿論それらも大事なのですが、もっと不可欠な事は私達の信仰の対象なのです。この女性はキリストに真っ直ぐ来るのです。そのことがなければ、私達の信仰は完全に間違った方向へ導かれることとなります。このような意味において、彼女は私達にとっては大きな信仰のモデルとなっています。

また、彼女は自分の文化背景にもかかわらず、助けを求めるほどにイエス様を信じています。

彼女は“私を哀れんで下さい。”と叫んでいます。キリストに対する自分の必要を認識しています。これは、福音の全てを通してイエス様の救いを受ける時に人々が助けを求めて行う願いです。これは日々そして毎時刻でも私達が心の中で、また言葉にして続けて行くべき良き祈りです。

彼女は自分でした良い仕業や聖書の正しい知識やイエス様の仲間の人々との個人的なつながりがあるから来たものではありません。この真実な信仰の人はイエス様のところに自分を低くして来たのです。これは私達にとってもイエス様に近づく時に取るべき適切な態度でもあります。

私達は、彼女がしたように、神様と繋がる唯一つの方法は神様の哀れみを通してのみであることを理解しなければなりません。そしてそれは、神様がキリストの命と、教え、その死と復活を通して示してくださったことです。私達がたとえ正式な教育を受けていなくても、強い情熱を感じていなくても、この女性のように、キリストは私達が今いるところで、これから行くところで、私達に会う準備ができておられるのです。

彼女の大きな信仰に加えて、この場合、彼女の愛も驚くべきものです。彼女は娘の痛みを自分のことにしています。なので彼女の願いは、“娘を憐れんで下さい。”ではなく“私を憐れんで下さい。”です。なぜなら彼女は自分の娘を誠実に深く愛しているからです。彼女は子供の困難を客観的にただ距離を置いて見ることができないのです。彼女は彼女の娘の面倒を見ていくつもりだし自分のできることは何でもするつもりです。彼女の愛が彼女を強いるのです。だから彼女はそこにいるのであってイエス様の助けが無いまま立ち去ろうとしないのです。このようにして彼女は、キリストが十字架に行くことによって人間に持たれる愛、そのような愛をキリストと分かち合うのです。十字架によってキリストは私達の罪と恥を取り去りご自身を罰せられそれらを自分のものとされました。

彼女は娘と共に苦悩の重みを耐え、娘のために助けを求めているのです。そうすることによって、彼女自身の仕事である子供が特別に必要とする世話をすることを容易にしようとしただけでなかったのです。彼女自身も十字架の道を歩いています。キリストがこのことに気がついていないのは想像し難いことです。

悲しいことに弟子たちは何が起きているか分かっていません。23節では弟子達がイエス様に“彼女を去らせて下さい。私達の後を付いて来て叫び続けていますから。”と言っています。弟子達はこの女性やその娘の事より自分達の思いを懸念しているのです。人々が私達のところに助けを求めて来る時、私達の答えはよりキリストの答えに、そしてこの女性の答えに近いものでしょうか？ これらは、神様がいつも(継続して)私達に尋ねておられるように、私達も自分自身に問い続けるべき質問です。

このように弟子達が学びと成長の機会を失いましたが、イエス様はその中に入って行って彼らを助けられません。この女性は深い嘆きの表情をしているところ、23 節では、” イエスは何も言われなかった。” とあります。どうしたのでしょうか？ イエス様何をしているのですか？ 今こそ、彼女とその娘の為に奇跡を行う時でしょう。今こそ、全てを含んだ、勇気付けることができ支えとなるような、そんな言葉を仰る時でしょう。彼女に、神様は彼女と同じような他の民族の人々をも同じように愛していると言って下さい。彼女に、娘の困難は神様が彼女を拒絶しているサインではなくて神様の助けを見つけることができる機会だと言って下さい。何か言って下さい。何かをして下さい。ただ黙ってそこに立っていないで下さい。

皆さんは、神様にこのようなことを言いたいと感じたことはありませんか？ 必死になって神様の助けを探している時に神様の沈黙を聞いたことがありますか？ 皆さんは、神様が何故、皆さんが本当に知りたいと思っている事を言って下さらなかったり、皆さんが受け取る必要があると思ったものを与えて下さらなかったり、それらを理解しようと苦しみもがいたことがあるのでしょうか？ もしおありなら、皆さんも、自分自身のことになると神様の沈黙に向き合うことがどんなに難しいことか分かるでしょう。

しかしマタイによれば(24 節)、彼女がイエス様から頂いた言葉は、” 私が遣わされたのはイスラエルの民のためだけです。彼らは失われた羊のようです。” というものでした。イエス様、そうですね。私達はイエス様には特別な使命があったと分かっています。神様はイエス様を一度に全ての事をする為にこの世に送られたのではありません。最初にユダヤ人に救いをもたらし、それから異邦人へもたらされます。OK そうですね。でも、イエス様あなたの前にいるこの哀れな女と彼女の娘のことはどうなるのですか。

まだ答えはありません。でもここで。キリストの沈黙に対するこの女性の反応について見てみると、何か重要なことがあると分かります。25 節で、彼女はイエス様の前で、“ 膝をついて伏した。” とあります。ある訳では “ 礼拝した “ というのもあります。彼女は自分の身体を使ってより自分自身を低くしダビデの子、救い主なるキリストの偉大さを認識していることを示したのです。

ここで使われている言葉は、“proskuneo “ という言葉から来ており、それは膝を折って屈み額が地面に付くまで続ける又は敬意の意味を込めて相手の手にキスをする事意味します。この女性が正確にどのようなしたのかは分かりませんが、ここではキリストを褒め称えているのです。私達が見てきた当初の肝心な点は、彼女が何か(彼女の娘の中にいる悪霊からの自由)を求めていたということです。ですが今や、彼女

の思いは「与えられるもの」ということを超えて、「与えて下さるお方」へと動いていったのです。これははるかに深い関係で、もっと完全に関わっていくことです。

神様の沈黙はもし私達が許すなら、このように私達をも導くことができます。しかし私達は、この女性のように進んでこの方向へ向かって行かなければなりません。

しかし彼女は止めようとせず続けて“主よ。助けて下さい。”と言いました。(25節) それに対してイエス様は彼女にとって一層難しい対応をしたと思われるのです。イエス様は、“子供達のパンを取ってそれを犬に与えるのは良いことはありません。”と答えました。犬!□ ですか。ダメですイエス様。そんな事を言わないで下さい! あなたが言うべき言葉ではありません。「犬」というのはユダヤ人が非ユダヤ人について語る時に時々侮蔑的に使っていた名称です。この時代のこの地域にいた多くの犬は汚れていて、みすぼらしく、ゴミを漁るもので、家で飼われているペットのように可愛い存在ではありません。なのでこれは私達がイエス様にもっとも言って欲しくないことなのです。それは人種差別主義者、性差別主義者の言葉に聞こえるし、ただそのままの意味です。

どうしてイエス様はこのようなことを言われたのでしょうか? もし本当に文字通りの意味で言ったとしたら、聖書に記録されているイエス様の全ての御生涯における教えや行動、その全てに完全に反することになりませんか? この話の理解のためには様々な方法があります。それらによれば、子供が公平に遊ぶことを学ぶように、御自身が属する文化の外側にいる人々の扱いをちょうど学んでいる最中だったというものや、彼女に対してそんなに無慈悲な意味ではなかった、何故なら、犬という言葉はみすぼらしい捨て犬ということではなくて、もっと子犬というような意味で使われているからというものです。

しかし、私にとって最も意味を持つ理解は、この信仰のある女性がイエス様の言葉に挑戦するような反応に焦点を当てることです。イエス様の言葉が暴言的であればあるほど、彼女は諦めることに抵抗し、お返しにより攻撃的になります。27節で彼女は、“はい主よ。しかし犬でさえ飼い主のテーブルから落ちたパン屑を食べます。”と。誰もが彼女が怒りに爆発するか屈辱と涙の内に立ち去るかと思ってしまうところ、彼女は素早く知恵を働かせ驚くほどの前向きな態度を示します。彼女はイエス様の言葉に、子犬とパン屑の関係を使い、全能の神の子から来るほんのささやかな助けでさえ十分であると答えるのです。

彼女はイスラエルの契約の子ではありませんし、神様の愛する多くのユダヤの民でさえありませんが、イエス様がマタイの福音書 17 章 20 節後段 “もしあなた方が

からし種ほどの信仰があるなら、この山に向かって「ここから動け」と言えばその通りになります。あなた方にできないことはありません。”と教えたことの意味を理解していると思います。このカナン人の女がイエス様の教えの真髓を理解しているのです。神様の愛の力は無制限です。なので、どの位皆さんが必要としているか、どの位信仰があるのかといったことは問題ではありません。問題なのは皆さんがどこに信仰(の源)を置くかです。そしてイエスキリストの父である神様にそれを置く時には、パン屑の価値しかないものでさえ十分なのです。神様はどんな必要をも答えられるお方です。私達にとって何でもない無価値のものでも、神様が扱われる時には、素晴らしいものとなるのです。

単純な信仰によってこれを受け入れるのは、このカナン人の女性やその娘にとってそうであったように、私達の生活においても大きな力となるものです。

私は、イエス様が彼女を試していたと思います。イエス様は彼女の心を分かっている、全てを知っている神様の子として彼女がこの大変難しい課題に上手に答えると知っているのです。

イエス様が他の多くの人々に対してこのような特別な行動を取られると考えるのは難しいです。そして、この話を読んで、キリストを信じ従う者達がこのように他の人々に話すのを神様が望んでおられると結論付けることは恐ろしい間違いです。でも、イエス様はこの場合に、この女性が対処できると知っており、実際に彼女はこの試練を、深く活力を持った信仰を通して神様の偉大な知恵へと導くものとしたのです。

私は 12 歳位の時に野球のリトルリーグのチームに入りました。そして最初の練習の日々の中のことです。新しいコーチのレスさんが私達チームのメンバーをそれぞれの守備に付かせて、ゴロでノックを始めました。最初彼は優しくノックしたところ、私達は簡単に捕球して返球することができました。コーチは私達が上手くできていると思っていなかったようで、コーチは今度はもっと強くゴロのノックをしましたが、それでも私達は捕球できて返球し続けて、ノックはもっと強くなっていきました。私達がコーチの顔色を注意して見ていると、彼は感心し、少し驚いていて嬉しそうなのが分かりました。またそのことで私達ももっとやる気になったのです。というのはコーチに私達ができることを示したかったからです。そしてすぐにコーチは、全力でノックをするように見えるほどまでになりました。ですがそのことは私達には何でもないことで、返って自分達もコーチに自分達の力を見せるんだと心に決心したのです。私が思うに、イエス様とこのカナン人の女性との交流は何かこのようなものでなかったと思うのです。

イエス様のこれらの言葉はその大部分が弟子達に向けられたものであると私は思います。26 節でイエス様が、” 子供達のパンを取り上げて、彼らの犬に与えるのは良

いことではありません。”と言われる時、彼らの文化では多くの人々がそう言うだろう、そのような言葉を言っているのです。神様の愛は全ての世界の人のためにそこにずっとあったのです。そして神様は、“全ての国々はあなたの子孫の故に祝福される。”(創世記 22 章 18 節) という目的のためにアブラハムを選ばれました。しかし幾世紀にも渡る人類の行いの中で、ユダヤ人は、自分達が神様から受ける神様の親切さからくる良いもの、そのみに焦点を当てた結果、他の人々のための神様の配慮を忘れてしまっているのです。弟子達も含めて、彼らは彼ら自身を他の人達と切り離しさえしており彼ら自身のグループの外の人々を気にかけなくなっているのです。

イエス様は、カナン人の女性に対する御自身の厳しい思いやりのない言葉でもって、そのように見えることを正確に弟子達に示しています。弟子達が、それがどれだけ醜いことかを知り、キリストが彼らを良い方向へ導いたと望みます。

私達にはこのページに記載されている言葉しかありませんので、イエス様がこれらの言葉を使う時の表情や声のトーンを知ることができません。しかし、この洞察力のある強い決心を持った女性に語られるイエス様の目には輝きが、その声のトーンには穏やかさが宿っているだろうことが

言葉の上から見て取れます。彼女がそうする時、厳しくはなく、狭い心の国粋主義者でもない彼女の娘への癒しと彼女自身の魂もために命の源を見つけるのです。彼女は犬ではなく彼女の必要を満たしたいと思われる愛する父と共にテーブルにつく子供として受け入れられるのです。

イエス様の答えは、何か、“降参だよ。”とか“認めなければならないね。あなたが正しい。”とか“お見事です。”のようなものです。イエス様は感心して、御自分がどんなに疲れているとしても喜んで助けたいのです。マルコの福音書 7 章 30 節では、“悪霊は去ってた。”とあります。ここで使われている“was gone”(去った)と翻訳されている動詞は、悪霊が完全に離れてしまって、もう戻ってこないという意味です。癒しは完全だったのです。

遅かれ早かれ私達は皆、直面する困難を携えて神様の御元へ行く時、神様の沈黙を聞くこととなります。だから私達はそのような時が来て試練を与えられることに備えることになるでしょう。さあ今こそ、神様の臨在と助けを探し続けることを私達の心の習慣としていきましょう。このような困難の時を神様に対する大きな信頼と私達や全ての人への神様の変わることのない愛に至らせる決心としましょう。私と一緒に祈っていただけますか？

愛の神様。カナン人の女性と彼女の生きた時代以来それぞれの必要を抱えて信仰によって神様の元へ来た多くの人々と共に私達も“ダビデの子、主よ。私を憐れんで下さい。”と祈ります。

あなたの知恵によって私達が受けるべきだと思っている答えをあなたが下さらない選択をされる時に、“主よ、私を助けてください。”とあなたに言い続ける意志を私達に与えて下さい。カナン人のこの女性が持っていたような強く大きな信仰を私達の内に建てあげて下さい。そしてそれを通してあなたの時と方法によって私達があなたの深く限りのない全ての人々に対する愛を見つけることができますように助けて下さい。あなたの驚くべき恵みを通して、あなたの愛する子供としてあなたのテーブルに着ける喜びを与えて下さい。そしてあなたの救いの愛を私達の周りの必要としている人々に伝えられるよう助けて下さい。これが私達の祈りです。私達の救い主であるキリストの御名によって祈ります。アーメン。

参考

Bible History Online. (2019). Bible History Online. Retrieved May 19, 2019 from <https://www.bible-history.com/>

Groupe Mont Gris Canada. (October 23, 2018). Explorez la Vie la Nature Vos Limites. Retrieved May 12, 2019 from

<https://www.facebook.com/128285714047049/photos/lhistoire-du-jourlydia-angiyoub-ivujivik-qu%27%20becm%27%20daille-de-la-bravourele-8-f%27%20v/993595424182736/>

Hadhazy, A. (May 2, 2016). How it's possible for an ordinary person to lift a car. BBC (British Broadcasting Corporation). Retrieved May 12, 2019 from <http://www.bbc.com/future/story/20160501-how-its-possible-for-an-ordinary-person-to-lift-a-car>

Salem Web Network. (2019). Proskuneo. Greek Lexicon (King James Version). Bible Study Tools. Retrieved May 10, 2019 from <https://www.biblestudytools.com/lexicons/greek/kjv/>

Strong, J. and McClintock, J. (1880). Syro-phoenician. McClintock and Strong Biblical Cyclopedia. New York: Harper and Brothers. Website 2019 from StudyLamp Software LLC. Retrieved May 12, 2019 from <https://www.biblicalencyclopedia.com/S/syro-phoenician.html>

Waldie, P. (February 21, 2006, April 23, 2018.) Protective mother wrestles lost polar bear. The Globe and Mail. Retrieved May 12, 2019 from <https://www.theglobeandmail.com/news/national/protective-mother-wrestles-lost-polar-bear/article703773/>